

開催日時：平成30年3月5日（月）13：30～15：00

開催場所：ルポールみずほ 3階 ゆりの間

出席者：三浦亮評議員（議長）、松浦評議員、佐々木評議員、佐藤評議員、館岡評議員、
小林評議員、松淵評議員、
中田支部長、桜田部長、三浦部長、佐藤グループ長、二田グループ長、安田グループ長、
間杉グループ長、沼倉主任、三澤主任、菅野主任（記）

議事録署名人：館岡評議員（被保険者代表） 松淵評議員（学識経験者）

委任状受理者：木村評議員 三浦潔評議員

■ 議事事項

1. 秋田支部データヘルス計画について
2. 第3回北海道・東北ブロック評議会の報告について
3. その他

■ 質疑応答、意見交換等

1. 秋田支部データヘルス計画について

【被保険者代表】

第1期データヘルス計画において喫煙とか塩分摂取のデータはあるが、飲酒されている方の飲酒量等に応じたリスクのデータはあるのか。また、データの中で運輸業界の健康リスクが高いとあるが、例えば夜勤交代制の職場にこういったリスクがあるのか把握はできないか。

【事務局】

飲酒については健診の間診票のなかに項目があるので追いかけていきたい。なお、夜勤交代制職場の健康リスクのデータについては持ち合わせていない。協定等を活かして運輸団体と連携しつつ、そういった方の健康について今後追跡調査していきたい。

【事業主代表】

第1期データヘルス計画については、客観的データを活用し、工夫した取り組みになっている。また、関係機関等と連携しこれまで以上に踏み込みつつあり、評価できる。一方、第2期計画であるが、計画を外部に対して発信するにあたり、中位目標が弱気に感じる。逆にいうとそれほど現実には厳しいということが前提にあるのか。具体的な数字が示されなければ理解しづらいのではないのか。

【事務局】

ご指摘についてはごもっとも。現状としては全国平均とは隔たりがあり、この差を平均までもっていくことは、かなりハードルが高いと考えている。3年後に再評価するタイミングもあるのでその時に見直していきたい。

【事業主代表】

ハードルが高いのは推測できる。事業所の皆さんにインパクトを与えるという意味では、具体的なわ

かりやすい数値設定が必要と思う。ただ、こんなに差があつて難しい、簡単でないということをむしろきちんと説明、理解をしてもらうことが現実的でないか。

【事務局】

適切なお意見であると思う。目標設定について、第1期は走りながら考えいくというスタンスだった。また、検証データがタイムリーに届かないので途中経過の把握が難しい。あまりにも高い数値目標だとなかなか近づいていかないという感覚がある。そうした中で、第2期はこのような目標としているが、今のご意見を踏まえて検討したい。

【学識経験者】

目標設定について各支部が取り組みれば全国平均も下がるので、「全国平均」と設定してしまうと秋田支部が目標を達成するためのハードルはさらに高くなると思われる。

【被保険者代表】

血圧リスク保有率は、投薬されている方も含むのか。

【事務局】

健診を受けた方のデータを使用しているので投薬されている方も含まれる。

【被保険者代表】

循環器の医師から、例えば血圧は5年10年で徐々に上がっていくので生活習慣の改善で治すには5年～10年かかると聞いたことがある。早く血圧を正常値へ戻すには投薬となるが、そうすると医療費が上がる。県民としてどのように考えていけばいいのか。

【事務局】

できれば生活習慣の改善で治していただくのがいいと思うが、投薬すらされていない方もいる。例えば血圧が180 mm Hgを超えているのに放置されている方もいる。まずは常日頃からの生活習慣の改善、状況に応じて投薬を受けるなどの対応が必要になってくると思われる。

【被保険者代表】

運輸業界と協定を結んでいるとのことだが、従業員の大半が男性だと思う。家庭では家族が作った料理を食べると思うがなかなかしょっぱいとか言いづらいのではないか。そうするとどうしても今まで慣れ親しんだ味をそのまま食べてしまい、なかなか減塩に結びつかないことが考えられる。料理を作る側の方に情報を提供することも必要ではないか。

【事務局】

県で掲げる「健康秋田いきいきアクションプラン」があるが、この中にいまのご意見も盛り込まれている。協会けんぽとしても県の動きと歩調をあわせて、食事のアドバイスをしたり減塩等の目標達成に向けた施策に取り組んでいきたい。

【被保険者代表】

自治体と協定を結んでいるということで、例えば学校給食とかで小さいうちから減塩教育が必要ではないか。

【事務局】

最近、健康に関することについて新聞等いろいろなところで取り上げられてきている。それぞれの団体が、バラバラに取り組むよりは、県のプランに歩調をあわせながら各団体が連携を図ることが重要だと考える。そういったことを念頭に置きながら事業を展開していきたい。

【学識経験者】

秋田県の血圧リスク保有率について、あらためて愕然とした。第1期の目標は、保有率の上昇を3%内に抑えるところがあるがそんなに秋田の状況は悪いのか。保有率を下げるのではなく上昇を抑えるということに驚いた。

【事務局】

健診を受ける人は増えてきている。これまでは比較的健康に興味があった方が受けていたが、それ以外の方が受診することによって顕在化してきていることは考えられる。

【学識経験者】

運輸業の血圧リスク保有率について業種別2位であるが1位の団体への対策をおこなわなくていいのか。

【事務局】

1位の団体は対象となる母数が少ない。一方、運輸業は母数が大きく、かつリスク項目が上位にきている。上げ過ぎると焦点がぼやけるので、ある程度力を注いでいける、そして効果が期待できる業界へターゲットを絞り込んで進めていく。

【被保険者代表】

秋田支部加入者の血圧リスク保有率が相当悪いことは理解できた。全国的での位置づけ、次位との差や、平均などはどのくらいか。

【事務局】

男性の血圧リスク保有率は全国比で121%であり、その他の項目も全国より高い。

【事業主代表】

ハイヤー協会では各地区ごとに合同支部会がある。かなりの人数が参加しているので、その中で生活習慣の改善等を指導してほしい。

【事務局】

協力させてもらいたい。

【学識経験者】

統計の見方、判断にはいろいろな問題がある。そう簡単には理解できない。それでもデータヘルス計画を進めなくてはいけないので、第2期に向けいっそうの改善をしてほしい。

2. 第3回北海道・東北ブロック評議会の報告について

意見特になし。

3. その他

【議長】

協会けんぽが平成20年度に発足し、今年10月に満10年を迎えることになる。

この場で皆様方にいろいろご議論いただきしており、皆様方は協会についてかなり理解されているが、一般の方はその全体像を掴めていないのが現状だと思う。

また、非常に多くの情報が流れており、協会けんぽに対する国民全般の理解度、納得感は様々であると思う。

しかし、協会のその理念や制度、現在に至る推移などを一般の国民にわかりやすく説明する資料が見当たらない。

そこで、成り立ちや現在の体制、本評議会の流れなど、一般の方々に理解できる資料を、この機会に作成すると、非常に有意義であると思う。ぜひ、お願いしたい。

【事務局】

作成する方向で検討させていただく。

次回評議会までは難しいかもしれないが、可能な限り早い時期に案なりを示させていただければと思う。

■次回評議会の開催 5月開催予定